

福祉・子育て支援の経験を、本で社会へ。 NPO 法人えんとかくの出版部門 「えんとかく BOOKS」が刊行分野を拡充

絵本・ぬりえに加え、福祉・教育を考える本と小説を紹介。現場の知恵や一人ひとりの経験を、読者に届ける出版活動

発表の概要

特定非営利活動法人えんとかく（愛知県豊明市、代表理事：脇本泰志）は、出版部門「えんとかく BOOKS」で、福祉・子育て支援につながる本づくりを進めています。2026 年 10 月 7 日には福祉・教育分野の書籍と小説の販売を公式サイトで案内し、絵本・ぬりえを含む 4 タイトルを紹介しています。読む人の学びと、経験を伝えたい人の表現を支える取り組みとして、出版活動を広げています。

福祉の現場から出版へ

えんとかくは、誰もが活躍できる希望ある社会の実現を目指し、児童発達支援、放課後等デイサービスに取り組んでいます。子どもや家族の生活に関わる法人として、一人ひとりの経験や選択を大切にする姿勢を、本づくりにも生かします。

この出版活動につながる考えを、代表理事の脇本は 2026 年 9 月 8 日の公開コラムで述べています。現場で得た経験を本人の中だけにとどめず、ほかの人が役立てられる言葉にする。うまくいったことだけでなく、迷いや失敗も伝え、次に取り組む人の手がかりにする。出版を、事業の背景や大切にしている考えを長く残す手段として捉えています。

読者と経験を伝える人の間をつなぐ

福祉や子育ての経験には、支援する人にも、家族にも、それぞれの言葉で伝えられることがあります。えんとかく BOOKS は、ブログや活動記録、自分史、実践の工夫などを、誰に何を伝える本なのかから整理します。原稿がまとまっていない段階でも、手元の素材や話したいテーマから、必要な制作工程を検討できる相談窓口を設けています。

刊行している本に込めたテーマ

2026年10月7日に販売を案内した2冊は、福祉の実践を考える視点と、物語を通じて他者を理解しようとする視点を、それぞれの形で扱っています。以下は出版活動の一例です。

『「できない」を、ひとりに背負わせない。人の可能性をひらく 居場所・仕事・AIのつくり方』

著者：脇本泰志。人が抱える困難を、伝え方や環境、関係、仕組みから考える福祉・教育分野の本です。

『雨の日は音が多すぎる』

著者：朝凪 灯。文庫に返された本と一通の手紙をきっかけに、誰かの物語を決めつけずに聞こうとする姿を描く小説です。

子ども向けには、自分で選ぶ楽しさを扱う『じぶんでえらぶやさしいぬりえ たべもの編』、相手のペースを待つことや絵で伝えることを描く『こもれびの森の まっててね』を刊行しています。後者の本文・イラストには生成AIを使用しており、キャラクターと物語はフィクションです。

えんとかく BOOKS の書籍と活動を見る

出版の仕組みと費用

刊行書籍はAmazonで販売しています。また、著者が制作費用を負担する自費出版のコーディネートを行っています。相談内容に応じて企画整理、編集、表紙・本文の制作、出版手続きなどの対応範囲と費用を提示し、合意後に有料の制作へ進みます。出版費用の無償提供や、販売部数を保証する仕組みではありません。

書くことや出版の進め方に迷う人が、自分の経験を本として届けられるかを考える入口にしたいと考えています。受け入れ可否や必要な工程は、企画ごとに確認します。

出版相談の内容と費用の案内

運営法人とお問い合わせ

法人名：特定非営利活動法人えんとかく

代表理事：脇本泰志

活動拠点：愛知県豊明市栄町上姥子 3-213 栄団地 102

主な事業：児童発達支援、放課後等デイサービス、出版

取材・本件のお問い合わせ：info@entokaku.org / 0562-97-5266

法人公式サイト